

シリーズ 藩物語

三谷紘平

著



中

津

藩



黒田・細川・小笠原・奥平の各家が治めた豊前の景勝地。
蘭学への傾倒が強く、時代に先駆けた知者を育む。



シ
リ
I
ス
藩
物
語

三谷絃平……著

中津藩

現代書館

三谷紘平（みたに・こうへい）
昭和五十七年（一九八二）大分県別府市生まれ。別府大学大学院文学研究科文化財学専攻博士後期課程満期退学。
現在、中津市教育委員会文化財課に勤務。

シリーズ 漢物語 はんものがたり 中津藩 なかつはん

二〇一四年五月二十日 第一版第一刷発行

著者 三谷紘平

発行者 菊地泰博

発行所 株式会社 現代書館

東京都千代田区飯田橋三二二五 郵便番号 102-00072 <http://www.gendaishokan.co.jp/>
電話 03-3221-1321 FAX 03-3226-2590 振替 00120-3183725

組版 デザイン・編集室 エディット

装丁 中山銀士・杉山健慈

印刷 平河工業社（本文）東光印刷所（カバー・表紙・見返し・帯）

製本 越後堂製本

編集 二又和仁

編集協力 黒澤 務

校正協力 岩田純子

© 2014 Printed in Japan ISBN978-4-7684-7134-0

●定価はカバーに表示してあります。乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

●本書の一部あるいは全部を無断で利用（コピー等）することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。
但し、視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用出来ない人のために、営利を目的とする場合を除き、

「録音図書」「点字図書」「拡大写本」の製作を認めます。その際は事前に当社までご連絡下さい。

シリーズ藩物語

中

津

藩

目次

第一章 中津藩の始まり——黒田・細川時代 黒田氏と細川氏が藩体制の基礎を築く。

【1】——戦国の動乱と黒田官兵衛……………10

宇佐神宮のお膝元・豊前中津／豊前地方の中世／軍師・黒田官兵衛の誕生／官兵衛の戦術／耳川の合戦と豊臣秀吉の九州征伐

【2】——九州仕置と国人一揆……………22

黒田官兵衛、豊前六郡を与えられる／豊前の雄・宇都宮氏／豊前国人衆の蜂起／長岩城攻略と城井谷攻め

【3】——黒田氏時代の中津……………33

宇都宮鎮房の命を賭した抵抗／黒田官兵衛の豊前支配／官兵衛の隠居と小田原攻め／文禄・慶長の役／「西の関ヶ原」石垣原の戦い

【4】——豊前での細川忠興・忠利の治世……………47

細川忠興・忠利親子／細川家の入部／城番制と手水制／忠興の隠居と中津領、肥後への移封／キリスト教の理解者から弾圧者へ

【5】——中津城の築城と城下町の形成……………60

官兵衛の築城——九州最古の近世城郭／細川忠興による元和の大改修

第二章 小笠原氏の入封と治世

細川氏の旧領を小笠原氏が四家で分割し、中津藩が成立した。

【1】——初代藩主小笠原長次……………68

清和源氏の流れを汲む小笠原家／祖父秀政と父忠脩^{ただなが}／大坂の陣後の中津藩への移封／播州龍野藩より中津藩八万石へ

【2】——長次の政治……………75

仏神への崇敬／島原の乱／天領日田を預かる／中津の町づくり

【3】——悪政の時代……………81

二代藩主小笠原長勝／三代藩主長胤と荒瀬井堰／領地半減、改易、そして城を明け渡す

第三章 奥平氏の入封と治世

譜代大名奥平家による百五十年の領国経営。

【1】——譜代の名門・奥平家……………94

三河の戦国武将／中津に至るまで

【2】——奥平家十萬石の治政……………99

中津藩奥平家／昌成の掟は町方三万条と村方二七万条／藩邸ほか、政の仕組みなど／梅田伝次左衛門による「宝暦の改革」

【3】——城下の発展……………107

城下町の政策／町人の世界がよみがえる「惣町大帳」／交通網の発達／城下の祭り

〔4〕——農村の暮らし……………118

豊前領七公三民の苛税／飢饉・災害に対策をしても……／度重なる一揆と逃散／
前代未聞の大一揆「文化一揆」／文化一揆の原因とその処分

第四章 蘭学の泉湧き、文化の華開く 藩主による学問の奨励で多くの蘭学者・文化人が輩出。

133

〔1〕——蘭学の泉湧く……………134

蘭学を奨励する三代藩主奥平昌鹿／藩医前野良沢と『解体新書』／蘭癖大名奥平昌高の登場／
『バスタード辞書』の編纂／医学の発展

〔2〕——儒学の発展と藩校進脩館創設……………144

藤田敬所と倉成龍渚／藩校進脩館の創設／進脩館の学則／進脩館出身者の活躍／渡辺国学と道生館

〔3〕——耶馬溪の景観と文化人……………154

江戸時代の紀行文／青の洞門／頼山陽の入溪

第五章 幕末の動乱、そして近代へ 日本近代化の父・福澤諭吉を生んだ幕末の中津藩。

165

〔1〕——激動期の中津藩……………166

江戸後期の中津藩主／幕長戦争と中津藩／木の子岳事件／悲劇の挙兵「御許山騒動」／
明治維新と最後の藩主奥平昌邁

〔2〕——近代社会の成立と中津隊の蜂起……………179

廃藩置県と行政改革／自由民権運動と増田宋太郎／西南戦争と中津隊の蜂起

〔3〕——西洋化の父・福澤諭吉……………186

幼少期の福澤諭吉／門閥制度は親の敵かたき／長崎遊学後、適塾に入門／英学転向、そして欧米視察へ／未来を開いた慶應義塾、中津市学校

エピソード 中津市が誕生するまで……………201

あとがき……………204 参考・引用文献……………206

中津藩領域関連図……………8 官兵衛が与えられた豊前6郡……………22

小笠原家領地の変遷……………73 奥平家系図……………128 歴代藩主一覧……………130

城下町の火災……………162 領内の自然災害……………163

こ れ も 中 津

現代に伝わる中津藩①黒田家・細川家ゆかりの地……………65

現代に伝わる中津藩②小笠原家ゆかりの地……………91

現代に伝わる中津藩③奥平家ゆかりの地……………129

古刹羅漢寺……………66 耶馬溪ってどこ？……………92

中津の祭り……………131 中津の名産……………132 中津藩人物伝……………164

寺町めぐり……………198 資料館めぐり……………200

中津藩物語

天正十五年（一五八七）豊臣秀吉から豊前国六郡十二万石を拝領して入部した天下の軍師黒田官兵衛は、在地の勢力を押さえて中津城を築城し、近世中津藩の基礎を築き上げた。そして官兵衛はここを拠点に、秀吉の天下統一を一番近くで支えたのである。

豊前国は九州の玄関口として重要視され、慶長五年（一六〇〇）関ヶ原の戦いの後、黒田家が福岡に移封となると、豊前一国・豊後二郡三十万石の太守として、細川忠興が入部した。細川家は小倉城を本城とするが、二代忠利に家督が移った時、忠興は隠居城として中津城を改修し、自らの領地である中津領を作り上げた。

寛永九年（一六三二）、細川家は肥後移封となり、代わって小笠原家が豊前を拝領したが、その実は細川旧領を四分割し、小笠原一族の四家が分領したものであった。中津藩へは小笠原長勝が八万石で入部した。小笠原家は城下町の整備や農業振興に力を入れた一方で、歴代藩主が乱行に及んでしまうという悪政の歴史を作り上げてしま

藩という公国

江戸時代、日本には千に近い独立公国があった

江戸時代。徳川將軍家の下に、全国に三百諸侯の大名家があった。ほかに寺領や社領、知行所をもつ旗本領などを加えると数え切れないほどの独立公国があった。そのうち諸侯を何々家（か）中（ちゆう）と称していた。家中は主君を中心に家臣が忠誠を誓い、強い連帯感で結びついていた。家臣の下には足輕（あしきよ）層（そう）があり、全体の軍事力の維持と領民の統制をしていたのである。その家中を藩と後世の史家は呼んだ。

江戸時代に何々藩と公称することはまれで、明治以降の使用が多い。それは近代からみた江戸時代の大名の領域や支配機構を総称する歴史用語として使われた。その独立公国たる藩にはそれぞれ個性的な藩風（はんふう）と自立した政治・経済・文化があった。幕藩体制とは歴史学者伊東多三郎氏の視点だが、まさに將軍家の諸侯の統制と各藩の地方分権が巧く組み合わされていた、連邦でもない奇妙な封建的国家体制であった。

今日に生き続ける藩意識

明治維新から百四十年以上経っているのに、今

享保二年（一七一七）、小笠原家の改易にともなうて入部したのが、徳川譜代の奥平家であった。拝領高は十万石。小笠原の旧領では少ないので国外に飛び地を与えられていた。奥平家は時代を通して藩政改革に努め、領内の疲弊を回復させようとするが、度重なる飢饉や災害によって、領民の一揆や逃散が頻繁に起こっている。

一方で江戸後期の学問、特に蘭学の発展は全国的にみても目を見張るものがある。杉田玄白らとともに『解体新書』を著した前野良沢や、蘭癖大名の異名をとり自ら蘭和辞書『バスタード辞書』を編纂した五代藩主奥平昌高など、多くの蘭学者を中津藩の土壤が育てている。

幕末になると国学者渡辺重名の説く草莽思想に感化された藩士たちが尊皇攘夷に燃えた。しかし、その一方で、文明開化の必要性を訴え、日本を近代化に導いた福澤諭吉も、中津藩が生んだ時代の寵児であった。

中世の時代を近世社会に変革した黒田官兵衛に始まり、藩体制を前近代のものとして西洋文化への転換を説いた福澤諭吉に終わる。日本史上の改革期に登場する二人の人物によって作られ解体された中津藩。その中津藩の物語を描いていきたい。

でも日本人に藩意識があるのはなぜだろうか。明治四年（一八七二）七月、明治新政府は廃藩置県を断行した。県を置いて、支配機構を変革し、今までの藩意識を改めようとしたのである。ところが、今でも、「あの人は薩摩藩の出身だ」とか、「我らは会津藩の出身だ」と言う。それは侍出身だけでなく、藩領出身も指しており、藩意識が県民意識をうわまわっているところさえある。むしろ、今でも藩対抗の意識が地方の歴史文化を動かしている。そう考えると、江戸時代に育まれた藩民意識が現代人にどのような影響を与え続けているのかを考える必要があるだろう。それは地方に住む人々の運命共同体としての藩の理性が今でも生きている証拠ではないかと思う。

藩の理性は、藩風とか、藩是とか、ひいては藩主の家風ともいべき家訓などで表されていた。

（稲川明雄（本シリーズ「長岡藩」筆者）
諸侯▼江戸時代の大名。

知行所▼江戸時代の旗本が知行として与えられた土地。

足輕層▼足輕・中間・小者など。

伊東多三郎▼近世藩政史研究家、東京大学史料編纂所所長を務めた。

廃藩置県▼藩体制を解体する明治政府の政治改革。廃藩により全国は三府三〇二県となった。同年末には統合により三府七二県となった。

シリーズ藩物語

中

津

藩

目次

第一章 中津藩の始まり——黒田・細川時代 黒田氏と細川氏が藩体制の基礎を築く。

〔1〕——戦国の動乱と黒田官兵衛……………10

宇佐神宮のお膝元・豊前中津／豊前地方の中世／軍師・黒田官兵衛の誕生／官兵衛の戦術／耳川の合戦と豊臣秀吉の九州征伐

〔2〕——九州仕置と国人一揆……………22

黒田官兵衛、豊前六郡を与えられる／豊前の雄・宇都宮氏／豊前国人衆の蜂起／長岩城攻略と城井谷攻め

〔3〕——黒田氏時代の中津……………33

宇都宮鎮房の命を賭した抵抗／黒田官兵衛の豊前支配／官兵衛の隠居と小田原攻め／文禄・慶長の役／「西の関ヶ原」石垣原の戦い

〔4〕——豊前での細川忠興・忠利の治世……………47

細川忠興・忠利親子／細川家の入部／城番制と手永制／忠興の隠居と中津領、肥後への移封／キリスト教の理解者から弾圧者へ

〔5〕——中津城の築城と城下町の形成……………60

官兵衛の築城——九州最古の近世城郭／細川忠興による元和の大改修

第二章 小笠原氏の入封と治世

細川氏の旧領を小笠原氏が四家で分割し、中津藩が成立した。

【1】——初代藩主小笠原長次……………68

清和源氏の流れを汲む小笠原家／祖父秀政と父忠脩^{ただなが}／大坂の陣後の中津藩への移封／播州龍野藩より中津藩八万石へ

【2】——長次の政治……………75

仏神への崇敬／島原の乱／天領日田を預かる／中津の町づくり

【3】——悪政の時代……………81

二代藩主小笠原長勝／三代藩主長胤と荒瀬井堰／領地半減、改易、そして城を明け渡す

第三章 奥平氏の入封と治世

譜代大名奥平家による百五十年の領国経営。

【1】——譜代の名門・奥平家……………94

三河の戦国武将／中津に至るまで

【2】——奥平家十萬石の治政……………99

中津藩奥平家／昌成の掟は町方二三カ条と村方二七カ条／藩邸ほか、政の仕組みなど／梅田伝次左衛門による「宝暦の改革」

【3】——城下の発展……………107

城下町の政策／町人の世界がよみがえる「惣町大帳」／交通網の発達／城下の祭り

〔4〕——農村の暮らし……………118

豊前領七公三民の苛税／飢饉・災害に対策をしても……／度重なる一揆と逃散／
前代未聞の大一揆「文化一揆」／文化一揆の原因とその処分

第四章 蘭学の泉湧き、文化の華開く 藩主による学問の奨励で多くの蘭学者・文化人が輩出。

133

〔1〕——蘭学の泉湧く……………134

蘭学を奨励する三代藩主奥平昌鹿／藩医前野良沢と『解体新書』／蘭癖大名奥平昌高の登場／
『バスタード辞書』の編纂／医学の発展

〔2〕——儒学の発展と藩校進脩館創設……………144

藤田敬所と倉成龍渚／藩校進脩館の創設／進脩館の学則／進脩館出身者の活躍／渡辺国学と道生館

〔3〕——耶馬溪の景観と文化人……………154

江戸時代の紀行文／青の洞門／頼山陽の入溪

第五章 幕末の動乱、そして近代へ 日本近代化の父・福澤諭吉を生んだ幕末の中津藩。

165

〔1〕——激動期の中津藩……………166

江戸後期の中津藩主／幕長戦争と中津藩／木の子岳事件／悲劇の挙兵「御許山騒動」／
明治維新と最後の藩主奥平昌邁

〔2〕——近代社会の成立と中津隊の蜂起……………179

廃藩置県と行政改革／自由民権運動と増田宋太郎／西南戦争と中津隊の蜂起

〔3〕——西洋化の父・福澤諭吉……………186

幼少期の福澤諭吉／門閥制度は親の敵かたき／長崎遊学後、適塾に入門／英学転向、そして欧米視察へ／未来を開いた慶應義塾、中津市学校

エピソード 中津市が誕生するまで……………201

あとがき……………204 参考・引用文献……………206

中津藩領域関連図……………8 官兵衛が与えられた豊前6郡……………22

小笠原家領地の変遷……………73 奥平家系図……………128 歴代藩主一覧……………130

城下町の火災……………162 領内の自然災害……………163

● ● ● これも中津 ● ● ●

現代に伝わる中津藩①黒田家・細川家ゆかりの地……………65

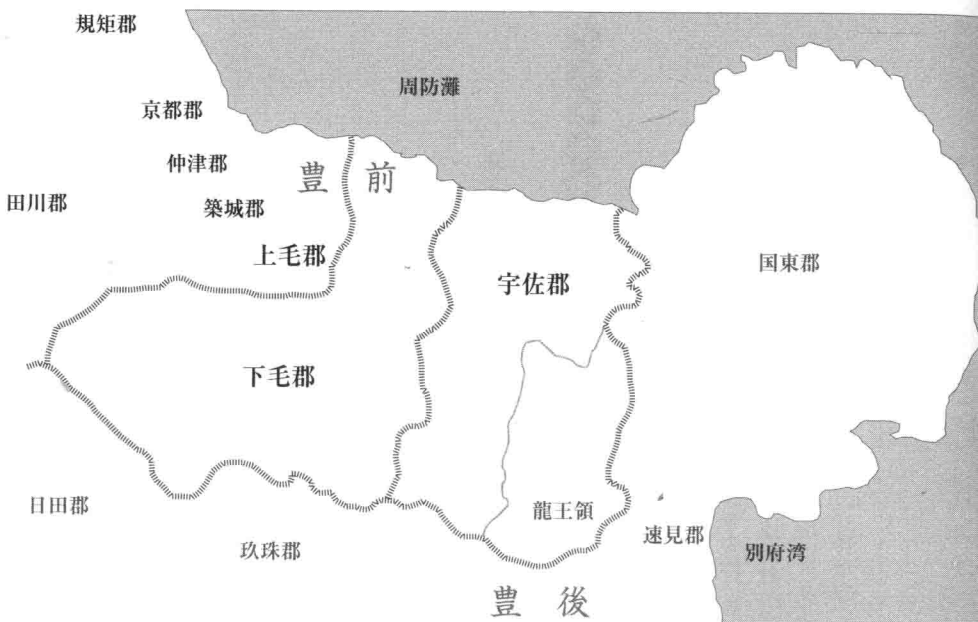
現代に伝わる中津藩②小笠原家ゆかりの地……………91

現代に伝わる中津藩③奥平家ゆかりの地……………129

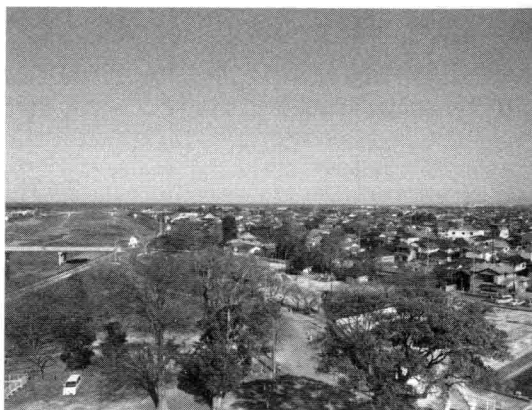
古刹羅漢寺……………66 耶馬溪ってどこ？……………92

中津の祭り……………131 中津の名産……………132 中津藩人物伝……………164

寺町めぐり……………198 資料館めぐり……………200



中津藩領域関連図



中津城天守閣から見た現在の中津市街

第一章 中津藩の始まり——黒田・細川時代

黒田氏と細川氏が藩体制の基礎を築く。